

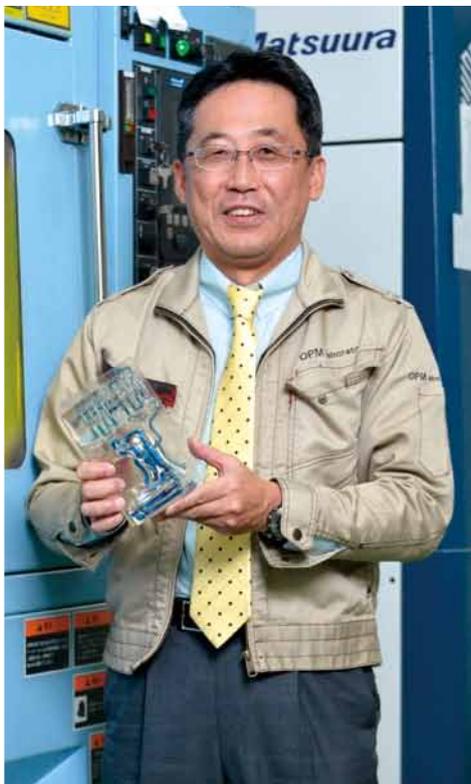
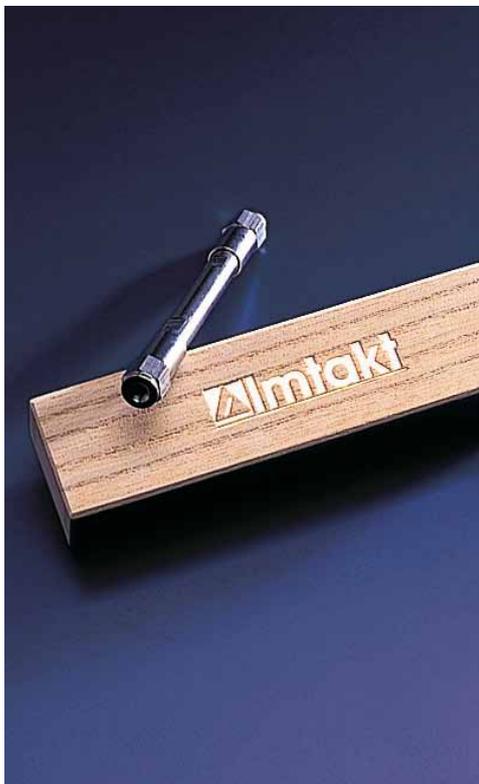
「人」と「人」が交わるフリーマガジン

KRPPRESS 3

2013
vol.129
MARCH

特集：ものづくり企業とKRP地区

躍進するKRP地区の「ものづくり企業」



KRP

(中上)株式会社OPMラボラトリー 代表取締役 森本 一穂氏
(左下)インタクト株式会社 取締役COO 矢澤 到氏
(右下)エプソン 京都デジタル捺染センター 小林 和史氏／早風 隆行氏

インタクト株式会社 (1号館)

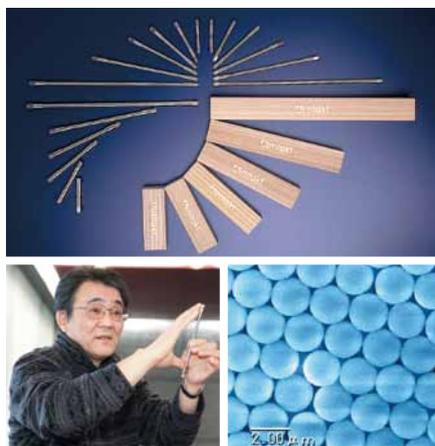
設立 / 1999年 事業内容 / HPLCカラムの開発製造販売



オンリーワンのカラム開発で 国際ビジネスの成功を目指す



オンリーワンの製品で信頼の高いHPLCカラム



取締役COO 矢澤 到氏

幅広い物質分析に不可欠な 「カラム」製造ひとすじ

物質の定量分析に欠かせない技術HPLC(高速液体クロマトグラフィー)。インタクト(株)は、その装置の心臓部ともいべき円筒の器具「カラム」を専門に開発製造販売、オンリーワンの製品技術で着実に業績を伸ばしている。

カラムとはステンレスの円筒にシリカゲルやポリマーゲルなどを充てんした器具で、流し込まれた物質を分離する働きを担う。分析の対象となる物質によって充てん剤や円筒のサイズにさまざまな種類がある。医薬品分野で新薬の探索から品質管

理まで薬品分析に用いられるほか、犯罪捜査や違法薬物検査、食品、ライフサイエンス、工業材料、環境分析など、使用範囲は幅広い。同社では現在およそ2000種類のカラムを製造、製薬のトップメーカーをはじめ、国内外の企業や研究所・大学など数万人のユーザーへ納入している。

個を生かした「ものづくり」で 米国での成功を目指す

取締役COOの矢澤到氏は、化粧品メーカーでHPLCのエンドユーザーの経験を積み、カラムメーカーや大手装置メーカーで技術開発に携わった後、「個が生かせる」仕事として独立、パートナーの

則内健司氏と共に起業。いわば「カラムの前後左右」を知り尽くした経営者だ。事業発展の要諦はそうして積み重ねたキャリアだといい、それを「念」の一語で表す。「念」がこもったカラムの開発・製造・販売こそ、同社のモットーであり矜持、他社が真似できない特長だという。

日本のカラム専門メーカーとして初めて米国に現地法人を設立し、約40カ国へ輸出するなど、世界を舞台にビジネスを展開する。「アメリカで黒字化したら本物」と話す矢澤取締役。2013年、新たに開発した製品数種類を携え国際ビジネスの中心地、米国でのさらなる売上拡大に、Made in Kyotoの「ものづくり」マインドで挑む。

KRP地区支援機関：京都市産業技術研究所 / 山本 佳宏氏 企業技術者のための能力開発コースを設定

インタクト(株)様のようなバイオ分野の中小企業を対象とする支援は、加工技術グループのバイオチームが担当。酒造メーカーを中心に食品分析や微生物試験などを行うほか、企業技術者のポテンシャルを上げるためのORT事業(企業研究能力開発事業)を実施しています。これは技術者が各自で立てた計画に基づ

いて分析技術などの製品開発ノウハウを習得するための支援で、週1回程度の研修を行うもの。インタクト(株)様では、複数の分析装置で自社製品の評価ができるような技術を身につけるために利用されています。また高性能機種の使用ニーズには、バイオ計測センターと連携を図って対応しています。



京都市産業技術研究所 加工技術グループ
バイオチーム 研究担当課長補佐 山本 佳宏氏